

竹内さんのウクライナ便り

収監されていた刑務所で看守に殴打されたと主張し、抗議してハンストに入っていたティモシェンコ元首相の件で、欧米からの圧力が強まり、同氏はハリコフ市内の病院に収容され、暴行事件前から悪化を訴えていた椎間板ヘルニアの治療を受けていますが、欧州議会ではその後も、彼女を初めとするウクライナでの「政治犯」解放を求める決議が、改めて採択されています。欧州議会の議員らが入院中の同氏を訪れ会見、あるいは、アメリカ国務省の人権レポートでウクライナが批判されたというニュースもありました。私は4月末、たまたまフランクフルトの空港で、待合スペースに無料で置かれていたドイツの新聞を目にする機会があったのですが、ティモシェンコ氏の件は、各紙ともちょうど大きく取り上げていました。一方最高会議では、与党が提出した、ロシア語をウクライナ語同様に第2の公用語として認めるという法案の審議が紛糾、議員らが乱闘を繰り広げるという事態が発生。ロシア語にソ連時代認められていたこの地位を、ウクライナの27州中13州で回復するという公約は、選挙の度に現与党「地域党」が掲げながら、結局今まで実現していなかったものですが、この時期にあえて審議が行われたのは、国内外で支持を失いつつある現政権が、そもそもの選挙地盤であるロシア語話者の多いウクライナ東・南部の有権者の人気を確保しようと、危険な賭けに出たのではないかと私は勝手に臆測しています。ちなみに首都のキエフでも、日常会話でロシア語を使用している人は未だに多いのですが、全国的には世論調査で「ウクライナ語が母語」と答える人が7割を超えています。

さて、今年度のサッカー欧州選手権大会が、ポーランドとウクライナで6月から7月初めに行われることになっており、それにあわせ各種の建設工事が行われていること、大会開催に伴う汚職につき野党寄りのメディアから批判があったものの、例によりうやむやになっていることは、以前にも拙稿で書いた通りです。ポリスポリ国際空港の新ターミナル工事（日本の



<日本からのメッセージを伝える(2012.2月)>

ODAによる)や、キエフから西方のジトーミル市に通じる幹線道路の工事などが、私の目にする機会が多いものですが、いずれも5月半ばの段階で未だに完成の様子がありません。果たして間に合うものかどうか。表向きは間に合ったことにしておいて、後から追加工事を行う、というのも、これまでの同様の事例から判断すればあり得るのですが。それはそれとして、私がふだんよく利用する地下鉄では、車内放送（「次は〇〇駅です」）がウクライナ語の後に英語でも繰り返されるようになりました。また車内の路線表示図も、ウクライナ語表記だけでなく英語表記のものが別途掲げられ、さらに地下鉄駅の構内あるいは出入口付近には、周辺の地図が英語表記入りで出現しました。これらは上記の大会のおかげであり、これまでウクライナ語を知らない外国人には利用が容易とは決していえなかった地下鉄が、だいぶ利用しやすくなったと思われます。しかし、同大会にあわせた各種のイベントが都心では盛んに行われるようになり、また観光客が増えて、キエフの一般住民にとってはいくぶん煩わしいのも事実です。副首相の皮算用によれば、大会開催期間中に百万人を下らないサッカー・ファンがウクライナを訪れる見込みだとか。スポーツや競争ごとにそもそも関心のない私としては、この時期市内に多いポプラの綿毛が空中浮遊、あるいは路傍に白く吹き溜まっているのをやり過ごすのと同じように、ただやり過ごしているだけですが、その昔の東京オリンピックの頃の東京の雰囲気はどのようだったのか、つい想像してみたくなります。（5月25日）